

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年8月1日

119号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



ヤシの実を採る準備をする3青年（右2番目から山口さん、増田さん、下條君）

＜三青年、ヤシの木を切り、実を収穫する＞

パンタナールのヤシ（カラウンダウー通称パルマ）の実
は、年に何回か実ります。

枝にぶどうの房のようになって1～2cmの実が沢山なり
ます。一本のヤシの木にかなりの量の収穫があり、下に
網を敷いておいて、長い棒の先にノコギリを付けて木の
上の方の葉陰に成った実の枝を切り落とすという原始的
な方法で収穫しています。豚やパカーが喜んで食べます。

パンタナールは水辺にヤシの木は無尽蔵にありますが、
収穫の仕方を研究すれば、能率が上がり、人件費を相当
削減できますので、養殖の採算性が高まるでしょう。

毎年派遣されている青年ボランティア隊のメンバーに
も経験してもらいますが、日本から訪れた若者達にとっ
ては、ヤシの木の切り倒しや、実の収穫は、開拓初期の
労働を経験するいいチャンスになるようです。

レダのこの時期は冬の季節なので、暑さも厳しくなく
圧倒的に蚊の数が少ないので、快適に労働作業に取り組
んで、気持ちの良い汗を流していました。



<ボカシ肥料を作る>



写真左：下條君（左）と山口さん（右）
写真上：三週間以上熟成させて使います。

ふすまに土着菌を混ぜて、ぼかし肥料を作りました。

（ボカシ肥料は、数種類の有機質肥料（4種類以上 米ヌカ・油カス・骨粉・魚カスなど）に微生物資材を入れ、総有機質肥料の40%の水で攪拌、40日ほど掛けて麴のように醗酵させたアミノ酸肥料のことをいいます。） 肥料としてだけでなく、アミノ酸の働きでおいしい野菜が育ちます。

<ベニータさん、ありがとう！>



◎レダで11年間、労働者達の為に食事を作ってくれたお母さんのような先住民の婦人が、高血圧で療養の為、6月を持ってオリンポ村に帰られました。

かつてのレダ牧場で父親が働いていたため、この婦人はレダの第一ゲストハウスの近くで生まれました。

この地は故郷なのです。

夫も、三人の息子、娘も、妹もレダで働いている一家で、中でもベニータさんは、一生懸命よく働き、皆に尽くしてくれ、模範を示してくれていました。

本当にありがとう！ベニータさん。

☆写真左：歓送会の食事後、皆で記念撮影（前列右から二番目がベニータさん）

<命誕生の季節>

家畜の牛や豚に子供がどんどん生まれて来ています。遂に豚も1000頭になりました。

青木さんが世話している犬の花子も出産し、母親そっくりの色柄の赤ちゃんもいます。ベニータさん万歳！レダの勝利万歳！と喜びを表現します。



“Benita”と下條君がケーキに名前を書きました。



SIEMBRAS DE PAZ
UN PROYECTO DE LA FUNDACIÓN PARA EL DESARROLLO SOSTENTABLE EN LAS AMÉRICAS DEL NOROCCIDENTE Y DEL SUR Y EL PROYECTO LERMA

Algunos de los objetivos de la fundación formada por voluntarios en Argentina en 1999 son la protección de uno de los territorios más grandes del mundo el Pantanal compartido entre Brasil, Bolivia y Paraguay; introducir dicho región al mundo a través de la promoción del ecoturismo, además de contribuir al desarrollo de la comunidad local en particular al pueblo indígena como también la investigación sobre el uso de la tecnología para utilizar las tallas de madera a los efectos de seleccionar la producción del momento de los alimentos en el futuro.

¿QUE NECESITO SABER PARA CRIAR CERDOS EN PARAGUAY?

Fecha: 08 de julio de 2013
Horario: 08:00 a 14:00 horas
Lugar: Salón de capacitación DEAGMAG, San Lorenzo

¿QUIÉNES?
Prof. Dr. Andrés María López, Prof. Dr. María Cristina Tronchetti

DURANTE LA JORNADA SE ENFATIZARÁN LOS SIGUIENTES ASPECTOS:

- Inscripciones. Los interesados deberán traer una de las siguientes fotos: una de un cerdo, una de un cerdo en un corral, una de un cerdo en un corral, una de un cerdo en un corral.
- Inscripciones. Los interesados deberán traer una de las siguientes fotos: una de un cerdo, una de un cerdo en un corral, una de un cerdo en un corral, una de un cerdo en un corral.

MAÑANA, PUBLICACIONES
TEL: (021) 515 353 - (021) 515 354 - (021) 515 355
mayas2013@gmail.com

El primer paso en la siembra de alevines de especies nativas en el río Paraguay es la selección de los alevines. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades.

La siembra de alevines de especies nativas en el río Paraguay es un proyecto que busca mejorar la biodiversidad y la salud del río. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades.

Exitosa cooperación público-privada
Primera y exitosa siembra de alevines de especies nativas en el río Paraguay

La fundación para el Desarrollo Sostenible en las Américas del Norte y del Sur y el Proyecto Lerma se unieron al Proyecto de Siembra de Alevines de Especies Nativas en el río Paraguay. El Proyecto de Siembra de Alevines de Especies Nativas en el río Paraguay es un proyecto que busca mejorar la biodiversidad y la salud del río.

El primer paso en la siembra de alevines de especies nativas en el río Paraguay es la selección de los alevines. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades.

放流式典の説明を教授から農牧省大臣と受けるフランコ大統領

La fundación para el Desarrollo Sostenible en las Américas del Norte y del Sur y el Proyecto Lerma se unieron al Proyecto de Siembra de Alevines de Especies Nativas en el río Paraguay. El Proyecto de Siembra de Alevines de Especies Nativas en el río Paraguay es un proyecto que busca mejorar la biodiversidad y la salud del río.

El primer paso en la siembra de alevines de especies nativas en el río Paraguay es la selección de los alevines. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades. Los alevines son seleccionados en el río Paraguay y se les da un tratamiento de salud para evitar enfermedades.

フランコ大統領、放流式にて
初めにパラグアイ川にパクを放流

パク孵化を指導した大学の水産養殖学科のマグノ・バレット教授

TALABARRERIA Y SOMBRERERIA
CASA VERA S.A.

HORARIO DE ATENCIÓN
Lunes a Viernes de 08 a 12 - 14:30 a 19 Hs.
Sábado de 08 a 12:30 Hs.

Mcal. Estigarribia 470
Telfax: 445 868 - 440 801
sombrosasasavera@hotmail.com
www.casavera.com.py
Asunción - Paraguay

官民の協力による成功
パラグアイ川に原生する魚の稚魚の初放流に成功

南北米福地開発財団はアスンシオン国立大学の獣医学部水産養殖学科との共同事業で、アルトパラグアイ州にあるプエルト・レダの養殖施設においてパクーの孵化に成功した。この事業の目的はパラグアイ川に原生する魚類の生存を保護することにある。

『上記の養殖事業はチャコ地域のプエルト・レダにおいて、南北米福地開発財団とアスンシオン国立大学の共同プロジェクトとしてはじめて行われた。わが国の自然環境保護に寄与する活動の一環として、パラグアイ川に生息するパクーの数を増やし保護するという目的で進められてきた。大学の水産養殖学科が技術面でサポートし、財団は養殖に必要な孵化施設や養殖池の建設を担当した。』

親魚の獲得と孵化

二十十年から孵化に必要なパクーの親魚の獲得が始められた。パラグアイ川の自然の川から捕獲された親魚を人口の養殖池に入れて、その生活環境になじませるために様々な努力がなされた。水産養殖学科のマグノ・バレット教授は民間の財団と大学の協力関係の重要性を強調し、もしこのような協力がなければ今回の養殖事業の成功もなかっただろうと語った。そして今後自然環境保護を推進していくにはこうした官民の協力こそ重要な鍵になるだろうと語った。

孵化施設での養殖

二十二年にレダにおいて人工孵化の実験施設が完成した。人工孵化においてホルモン剤による産卵を促進する技術が成功の秘訣である。さらに孵化したパクーの稚魚が成育する

ためには、担当者による餌や水温調整などの献身的な世話が必要である。

孵化器から養殖池に移され、その後三ヶ月間池の中で育てられた稚魚が今回、川に放流された。

一万匹の稚魚

孵化プロジェクトを始めて三年後、パラグアイ川に初めて一万匹の稚魚が放流された。また近隣のオリンポ市の養殖業者にも多数の稚魚が寄贈された。自然環境保全に貢献する重要なこの放流式典にはフランコ大統領初め数人の関係大臣も参加した。

南北米福地開発財団

財団の中田会長は今回の放流事業に関係した全ての人々に感謝の意を述べた。

特に技術面でサポートしてくれた大学関係者に対し敬意を表した。大学の協力のおかげで、アルト・パラグアイ州において始めて自然環境保全に貢献でき、原生する魚類の保全という目的を達成することができたと述べた。

一九九九年に創設された財団の目的は、ブラジル、ボリビア、パラグアイにまたがる世界最大の湿地帯パンタナールの自然環境を保護すること、エコツーリズムによってパンタナールを世界に知ってもらうこと、将来の世界的な飢餓問題解決に貢献するための研究、そしてこの地域の先住民の生活向上に役立つことである。財団創設以来既に近隣の先住民の三箇所の部落に学校を建設し、教育環境の改善に貢献してきた。

またパンタナールの自然環境保全のため一万本以上の植樹活動もしてきた。

ここ数年は先住民の経済面での安定のための事業として水産養殖のプロジェクトも促進してきている。(雑誌: PODER 五月号の記事)

青年奉仕隊支援最後のお願い！！

政府も対応が出来ない僻地、トロパンパ村への支援12000ドル(120万強)、ミンガグアス市の緑化活動のための苗木の準備等(200万円)が必要になります。7月中旬まで必要な経費の半分か準備出来ました。残り一カ月となりました。関係者に働きかけてくださり、ボランティアの目的が十分果たせるようにご協力をお願い致します。

支援金の送り先：

郵便口座 10180-77680471

未使用のハガキ、切手等 南北米事務局宛て



トロパンパ村の子供達が地球の裏側、日本から来る青年達と一緒に村の道沿いに木を植える活動の準備をしています、苗木を動物から守るため柵作りの木を奥地から運んでいるところ。



あなたに救える、命がある

**南北米福地開発協会
未使用の切手やハガキを集めています**

未使用の切手やハガキ等を換金してパラグアイでの活動(植樹、学校建設etc)の資金に当てています。多くの方のご協力をお願いいたします。

第13回に参加する青年が支援のお願いのポスターを作り、関係者に働きかけてくれている。

**地球家族として
自然を守りましょう**

**南北米福地開発協会
会員の募集中**

南米、パラグアイパンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒221-3100

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一番十五

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

柴沼邦彦

Eメール

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp